

第 3 回 大蔵海岸みらいプロジェクト・アドバイザリーボード

大蔵海岸の価値向上のための 取り組みについて

2026年2月2日
明 石 市

目次

1. 大蔵海岸みらいプロジェクトの背景	1
2. 大蔵海岸を取り巻くまちづくりの視点(イメージ図)	2
3. 大蔵海岸の価値向上において持つべき視点	3
4. 大蔵海岸のこれまでの経緯	4
5. 大蔵海岸の景観的価値	5
6. 大蔵海岸の現在の活用状況	6-7
7. 大蔵海岸の強み・弱みから考える取り組みテーマ	8
8. 大蔵海岸の目指す姿（10年後）	9-10
9. 取り組みテーマの具体策	11
10. テーマ毎のメニュー(案)	12-16
11. 大蔵海岸の10年後の活用状況(イメージ)	17
12. 目指す姿の実現への進め方	18
13. 今後のスケジュール	19
14. 推進体制の考え方	20

今後の明石のまちづくりにおいて大蔵海岸は大きく寄与できる可能性を持つ資源であり、大蔵海岸の価値を向上させるとともに明石全体の持続可能な都市づくりに繋げていく必要がある。

13年連続人口増⇒定住人口増加政策（子育て支援施策）の成功
「子育てのまち」として日本のトップランナーへ成長！

将来に
向かって！



左記の全体計画の推進において・・・

明石の海のシンボルである大蔵海岸
が持つポテンシャルは高い

その自然資源をまだまだ活用できて
いないのが現状



大蔵海岸みらいプロジェクトにより・・・

大蔵海岸の価値を向上

交流人口
関係人口
の拡大

地域経済
の活性化

持続可能な都市へ

【視点－１】 自然資源をベースとした価値向上

景観や海岸の生態系等の自然資源を守るとともに、より良く育てながら活用していくことを基本とする。

【視点－２】 市民・来訪者にとっての日常・非日常の場としての活用

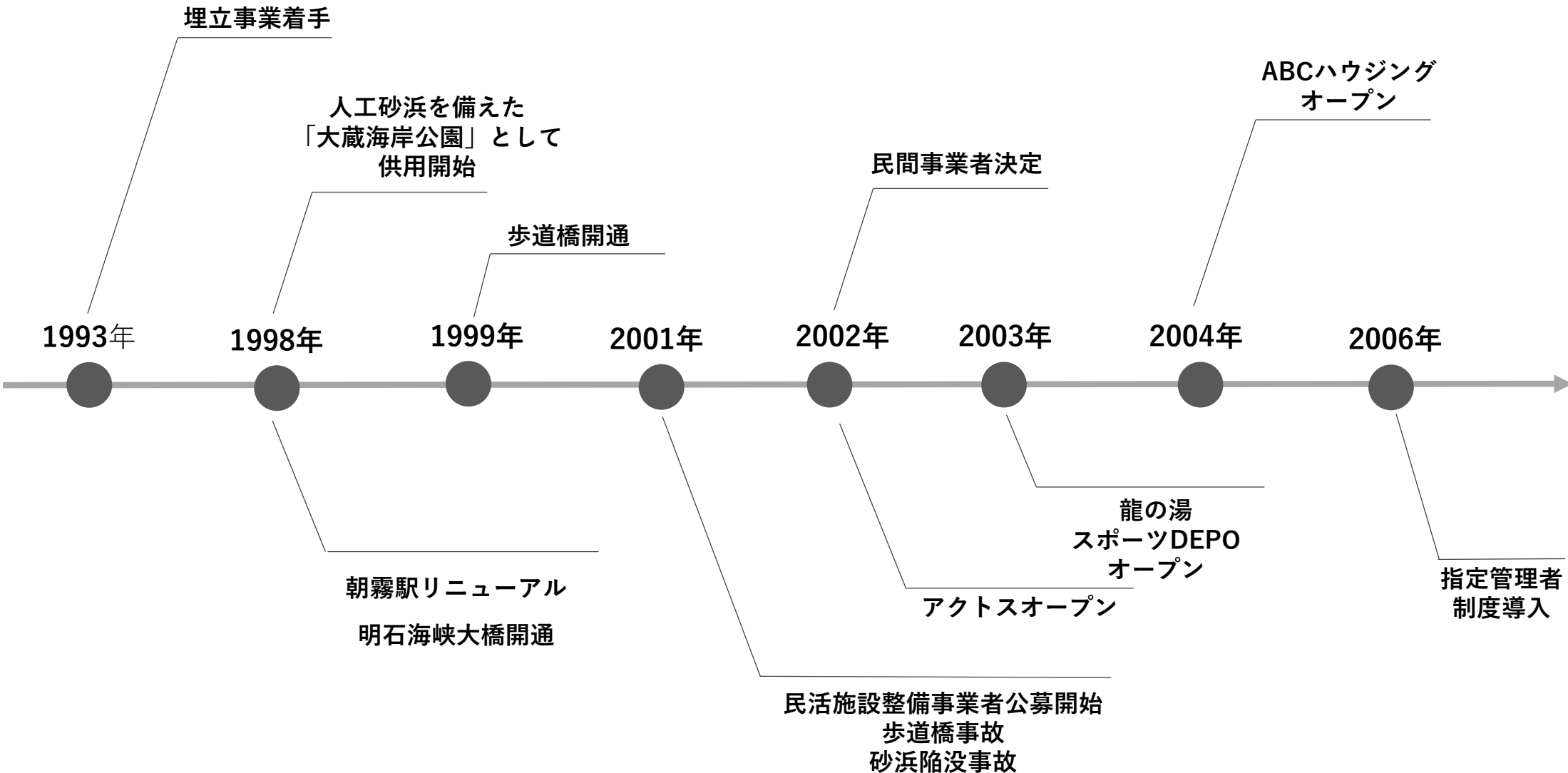
大蔵海岸の持つ自然資源に様々な機能や特性を掛け合わせながら、市民にとっての日常、市民・来訪者にとっての非日常が共存する場として価値を向上させていく。

【視点－３】 将来の明石を支える重要な拠点としての位置付け

持続可能な都市づくりにおいて重要なポジションであるとの認識のもと価値を向上させるとともに、大蔵海岸に留まることなく明石のまちづくりへの波及を意識する。

【視点－４】 安全・安心文化の継承

二つの大きな事故を経験した本市として、事故の教訓をいつまでも風化させることなく安全・安心文化を継承していく。



海、島、空、橋が織りなす景観美は全国的にも希少なものであり、その景観が有する力は明石にとっての大きな資源である。

大蔵海岸の景観的価値

◎自然景観としての価値

- ・目の前に広がる明石海峡、穏やかな海と青い空の風景
- ・対岸に望む淡路島
- ・水平線の広がり
- ・航行する船舶による風景の動態化

古くから多くの
和歌にも詠まれ
た景色

◎明石海峡大橋の存在による更なる価値の広がり

- ・間近に望む世界的スケールの構造物との重層的景観
- ・自然と人工物の高度な完成度

◎時間や季節によって変化する景観の価値

- ・朝日、夕日による自然美の造形
- ・陽光を浴びる青い海面
- ・明石海峡大橋のライトアップや淡路島の夜景

この景観の持つ力

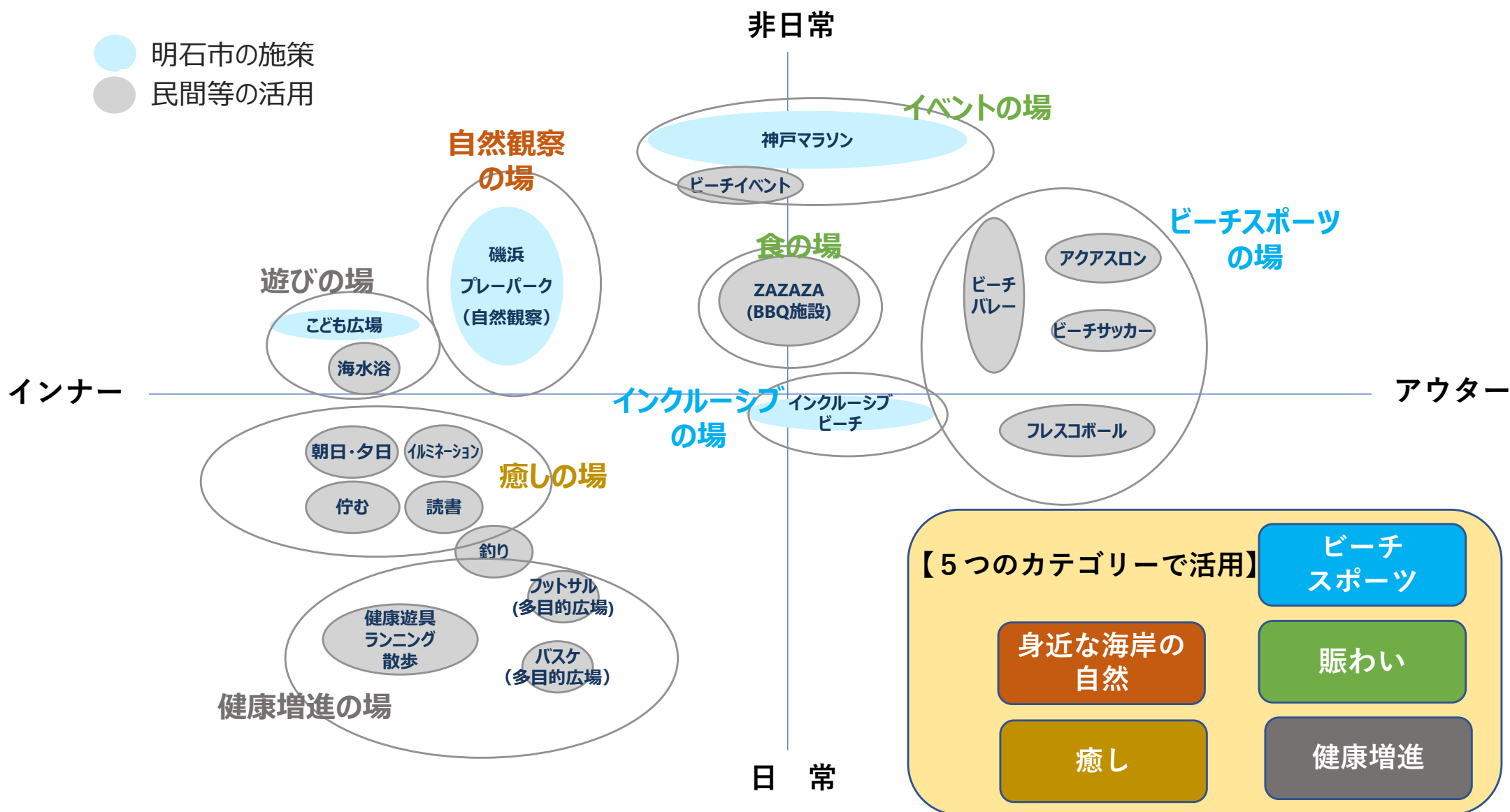
感動を与える

記憶に残る

心の余白を生む

市民の誇りに繋がる

現状としては、「ビーチスポーツ」「賑わい」「身近な海岸の自然」「健康増進」「癒し」のカテゴリーで活用している。



大蔵海岸の現在の活用状況

年齢層：60代以上が25.5%と最も高く、30代、40代、50代が続く。

性別：男性の割合が高いものの大きな差はない。

居住地：市外在住者が過半数（51.4%）を占め、市内在住者41.2%、県外在住者7.4%である。

月別：8月の来訪者が最多。

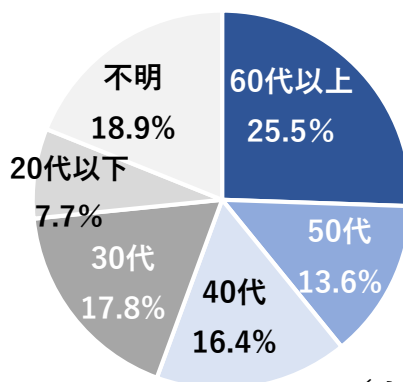
時間帯：14時台に来訪者が集中している。

～2024年 滞留人口の構成～

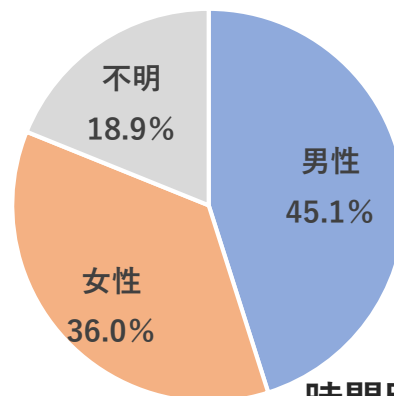
※資料：RESAS <https://resas.go.jp/>

※15分以上滞留している人の
1時間あたりの平均人数

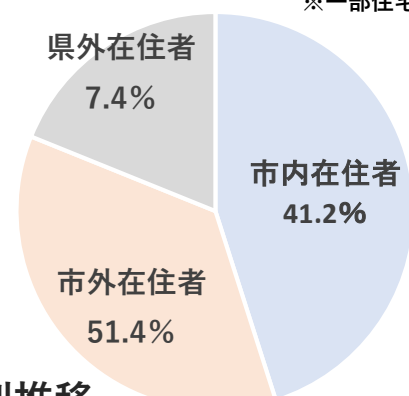
年齢



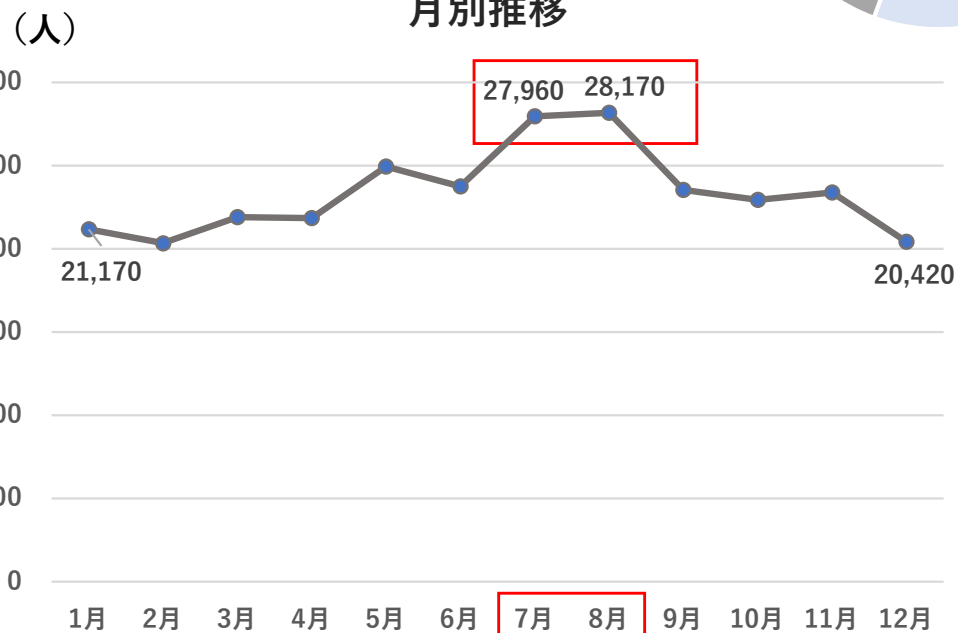
性別構成



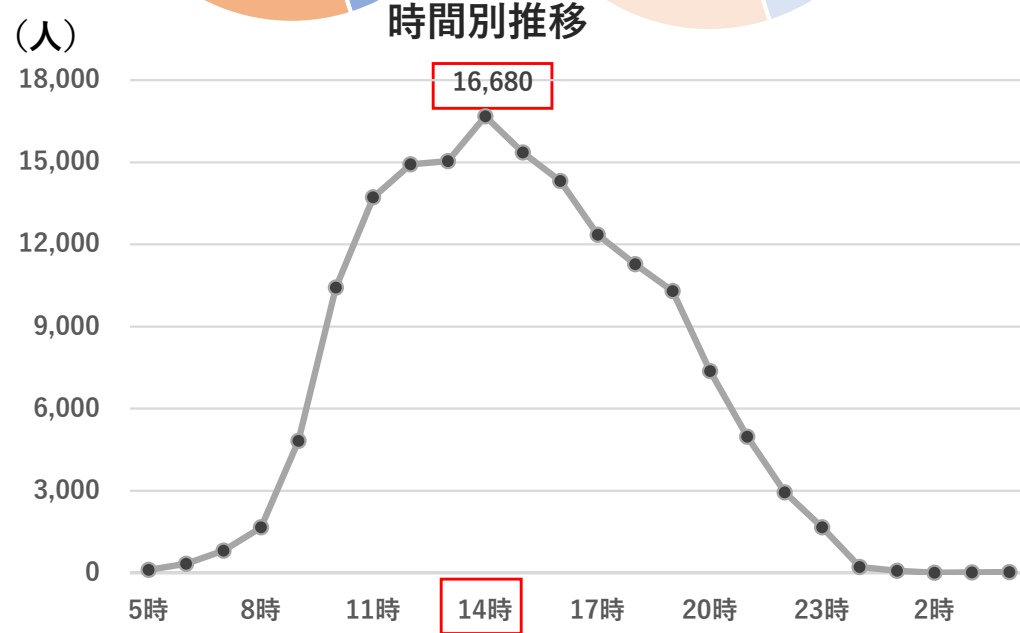
居住地構成



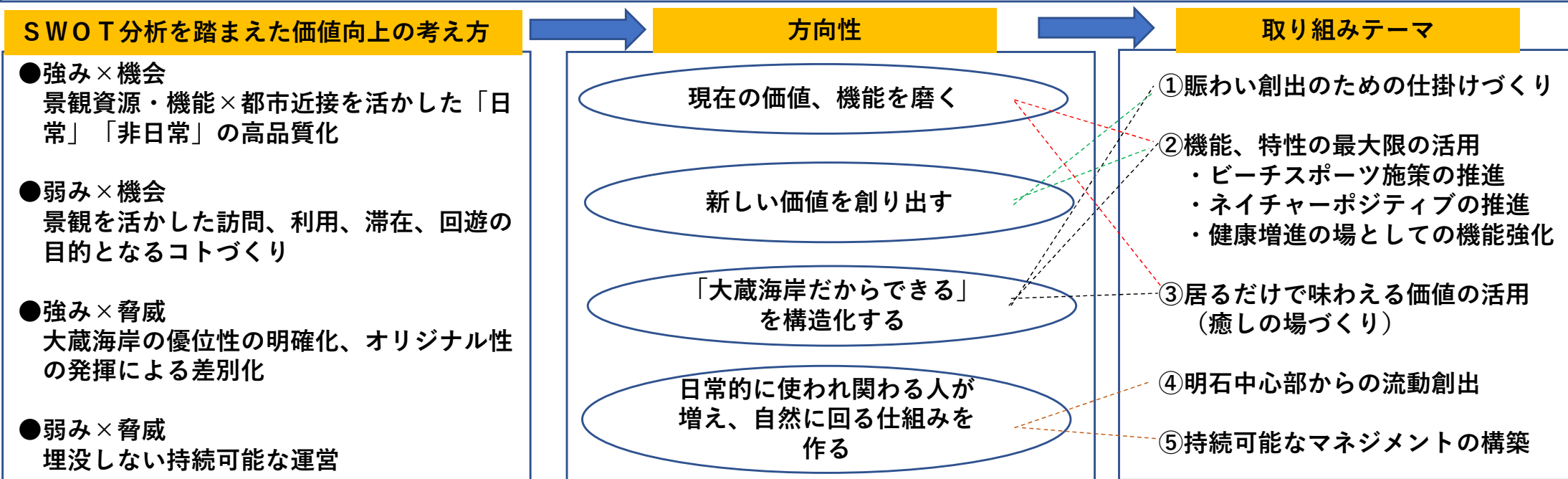
月別推移



時間帯別推移



	プラス要因	マイナス要因
内部環境	強み（Strengths） ・海、島、空、橋が織りなす全国的にも希少な景美 ・時間や季節で変化する景観 ・都市機能との近接性 ・ビーチスポーツ界での評価高 ・海岸の生物を身近に感じることができる都市型海岸 ・子育てとの親和性 ・対話と共創の推進	弱み（Weaknesses） ・市民の利用は一定あるが多くはない ・観光客は少なく、認知度も低い ・明石中心部からの回遊が弱い ・飲食を始め、絶景を活かすコンテンツの不足 ・積極的な情報発信が不足 ・事故のイメージ、事故後の守る運営管理
外部環境	機会（Opportunities） ・大阪、神戸という大都市圏を狙える立地 ・明石公園、東外港地区の計画検討 ・SNSの流行などによる絶景ブーム ・ナショナルトレセンの新設計画 ・ネイチャーポジティブの潮流 ・都市のなかでの癒し空間、居場所の少なさ ・新たな知識獲得、体験への嗜好 ・官民連携の制度、仕組みの成熟	脅威（Threats） ・近隣の海浜との競争 ・ビーチスポーツ施策を推進する他の地域との競合 ・維持管理、機能向上のコスト ・人口の減少や高齢化の進展 ・自然と触れることに対する価値観の変化（人工物への嗜好）



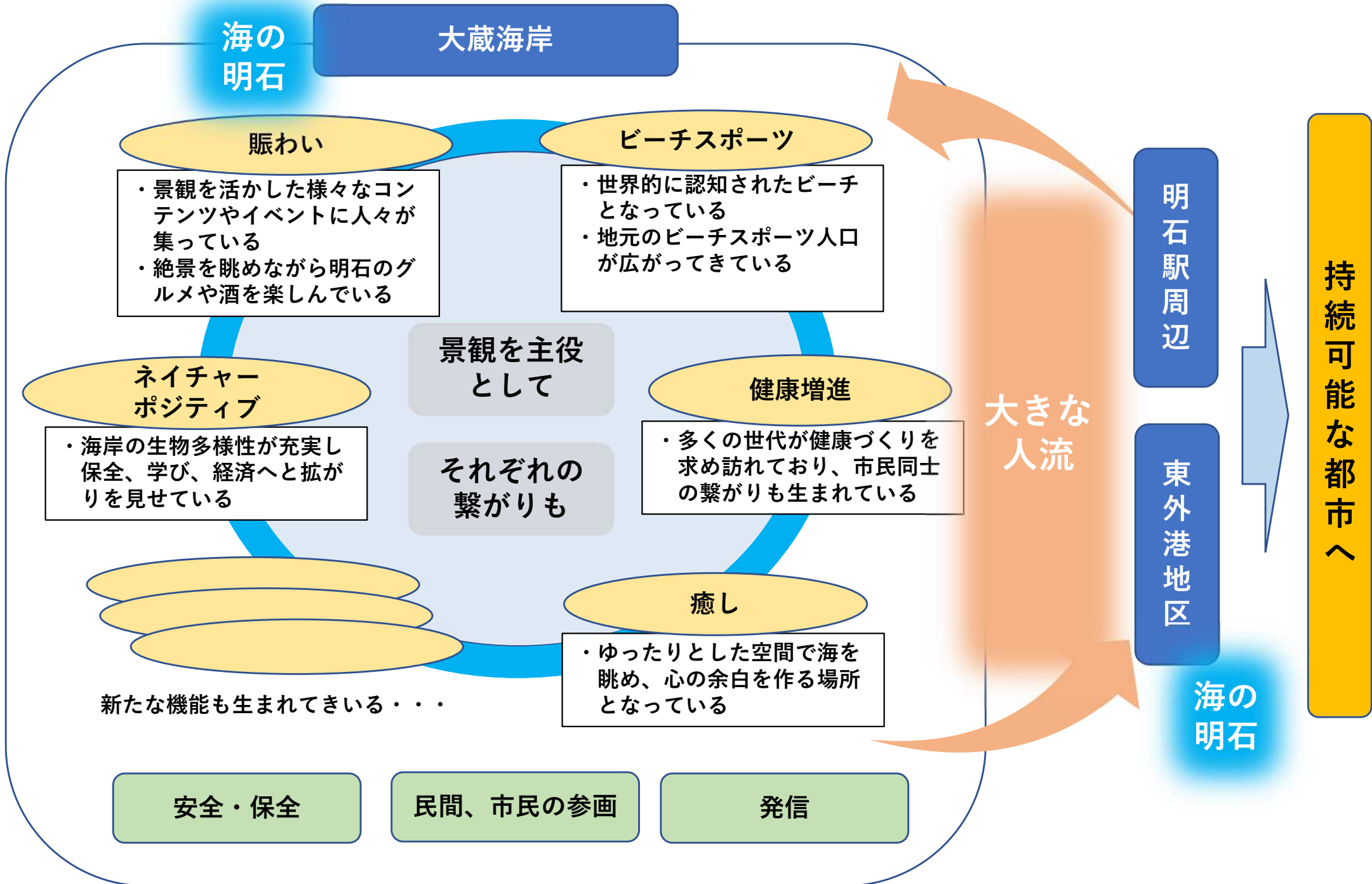
【コンセプト】

日常と非日常が重なる、明石の“海の顔”

～ 市民の暮らしに溶け込みながら来訪者を惹きつける、市民・関係者・来訪者の関わりが価値を育てる“開かれた海岸都市空間” ～

【目指す姿のイメージ】

- **絶景&様々なコトが楽しめる場所**として広く認知され、市民や多くの観光客が訪れている。
※一方で観光地一辺倒ではなく、市民と観光が両立する明石ならではのスポットとなっている。
- **絶景を望む海岸公園としての機能（ビーチ、スポーツ、自然、遊歩道など）**が活かされ、日常的に市民はもちろん多くの人が利用している。
ビーチスポーツ界では世界の明石となっている。
- **景観を眺めながら「心の余白をつくる場」「何もせず日々の時間の速さを調整する空間」**として多くの市民が癒しを求め訪れている。
- 大蔵海岸が強力なデスティネーションとなり、**明石駅周辺、東外港地区との間に大きな人流**が生まれている。
- 市民、来訪者を含む様々な関係者が大蔵海岸に**集い、使い、守り、挑戦**することで**価値を更新**し続けている。



①賑わいの創出

- 洒落た飲食施設の設置
- 景観を活かし訪問する目的となるコトの創出
- 賑わいを生むイベント等の開催
- 関係者、周辺との連携による価値の創造
- 朝日、夕日の活用
- 情報発信の強化

②ビーチスポーツ施策の推進

- 国際、国内大会の誘致
- プロクラブチームの誘致
- 新ナショナルトレセン（バレー）との連携
- 国際大会誘致を可能とする施設整備
- 市民の関心度向上のための仕掛けづくり
- ブルーフラッグ認証取得
- ビーチが身近な場となるための取り組み

③ネイチャーポジティブの推進

- 海岸生物の生息空間の創造
- 自然環境視点でのエリア活用
- 生物多様性を体験・学習できる場づくり
- 自然環境をテーマとしたイベント
- 自然共生サイト認定
- 市民の関心度向上のための仕掛けづくり
- 人材の育成

④健康増進の場としての機能強化

- イベント等による健康プログラムの提供
- 多くの世代が利用しなくなる機能、施設の増強

⑤癒しの場づくり

- ゆったりと落ち着ける居場所づくり
- 癒しを深めるツールの整備

⑥明石中心部からの流動創出の仕掛けづくり

- 明石駅周辺（明石公園、明石駅、中心商業地）、明石港東外港と連携したまちづくり
- 大蔵海岸へのシームレスなルートづくり
- 明石中心部との連携
- 回遊性を高めるための仕掛け
- 明石の魅力を繋ぎ合わせるストーリー作り
- アクセスの整備

⑦持続可能なマネジメント

- 安全最優先を大前提とする賑わいづくりに向けたマネジメント
- 評価の物差しの明確化
- 民間との連携、外部からの投資などによる財源の確保
- 市民の参画の促進
- 観光振興、交流活性化のための基盤づくり

①賑わいの創出

●洒落た飲食施設の設置

- ・絶景を見ながら、明石ならではの食や酒が味わえる飲食店舗の設置
- ・Park-PFIなどの活用によるハイセンスなカフェ、レストランの設置
- ・初動としてコンテナレストランなどの社会実験的な設置
- ・キッチンカーの誘致の強化

●景観を活かし訪問する目的となるコトの創出

- ・大蔵海岸を発着するクルーズ船 ※大蔵海岸発→クルーズ→元のフェリー乗り場着ができればなお良し
- ・海へ突き出したウッドデッキ、レストラン、海に向かってのブランコ
- ・ドローン無人空撮サービス
- ・フォトスポットへのスマホスタンドの設置

●賑わいを生むイベント等の開催

- ・マルシェ、フリーマーケット、クリスマスマーケット
- ・プロジェクションマッピング、ドローンショー、映画

●関係者、周辺との連携による価値の創造

- ・大蔵海岸内の民間施設とのコラボ
- ・淡路市との連携 （例）明石海峡を挟んでの大声大会・・・話題づくり

●朝日、夕日の活用

- ・朝日百選、夕日百選への登録
- ・夕日コンサート

●情報発信の強化

- ・公園HPのリニューアル、SNSの活用
- ・観光部門との連携

②ビーチスポーツ施策の推進

●国際、国内大会の誘致

- ・日本バレーボール連盟との連携
- ・スポーツコミッションによる大会誘致
- ・合宿など、競技者の練習場所としての誘致
- ・海外のビーチ都市との姉妹都市提携

●プロクラブチームの誘致

●新ナショナルトレセン（バレー）との連携

- ・トレーニングの場としての活用
- ・トップアスリートによるビーチスポーツ教室等の開催
- ・部活動の地域移行での連携

●国際大会誘致を可能とする施設整備

- ・ビーチスポーツ面積の拡大
- ・ビーチへの日陰ゾーンの新設
- ・砂
- ・観客席
- ・照明設備
- ・トイレ（ウォシュレット、おむつ替え）
- ・砂の熱対策（水道施設、配管、水撒き）
- ・常設シャワー
- ・倉庫
- ・宿泊施設
- ・一般練習施設の整備
- ・洒落た飲食施設の整備

●市民の関心度向上のための仕掛けづくり

- ・市民大会の開催
- ・部活動
- ・体験会や教室など、ビーチスポーツを身近に感じるためのイベント開催
- ・ビーチスポーツ用品の貸し出し

●ブルーフラッグ認証取得

●ビーチが市民に身近な場となるための取り組み

- ・スポーツに限らずビーチで遊ぶための用品等の貸し出し
- ・様々なスタイルでの利用促進
（例）太極拳、ヨガ、野点、焚火
- ・幼稚園、保育園等の運動会や遠足の場としての誘致

③ネイチャーポジティブの推進

- 海岸生物の生息空間の創造
 - ・防波堤
 - ・カキ礁の再生
- 自然環境視点でのエリア活用
 - ・東西の機能のゾーニング
 - 東：スポーツ、遊び
 - 西：生態系を重視、親子で学ぶ
 - ・公園緑地をベースとした商業エリアのり・デザイン
- 生物多様性を体験・学習できる場づくり
 - ・海岸植物園
 - ・子供向け体験エリア チルドレンズガーデン
- 自然環境をテーマとしたイベント
 - ・世界一クリーンなロックフェス
 - ・ビーチスポーツ＋海のプレーパーク
 - ・プレーパーク充実
 - ・生き物についての説明が聞ける自然観察会
 - ・地引網大会、魚の掴み取り大会
 - ・水中ドローン操縦体験
 - ・明石浦漁協などとの連携によるイベント実施
- 自然共生サイト認定
 - ・明石の他のスポットとの連携も
- 市民の関心度向上のための仕掛けづくり
 - ・幼稚園、保育園等の園外学習の場としての誘致
（小学３年生の環境体験学習の場として活用）
- 人材の育成
 - ・海の生き物についてのガイドができる人材の育成
 - ・プレーリーダー、環境教育リーダーの養成

④健康増進の場としての機能強化

- イベント等による健康プログラムの提供
 - ・健康プログラム
 - ・歩くイベント
 - ・ラジオ体操
 - ・保健所等の健康イベントとのコラボ
- 多くの世代が利用したくなる機能、施設の増強
 - ・ビーチサウナ
 - ・大蔵海岸を東の起点としたサイクリングロードの整備
（明石市の東西全てを結ぶコースに）

⑤癒しの場づくり

- ゆったりと落ち着ける居場所づくり
 - ・ベンチの増設
 - ・アウトドアファニチャーの設置
 - ・雰囲気を変えない日陰づくり
 - ・夜の癒しの場となるための照明
 - ・イベント等との棲み分け（何もしないゾーンの明確化）
- 癒しを深めるツールの整備
 - ・ドリンクを提供する洒落たカフェ
 - ・緑を増やす

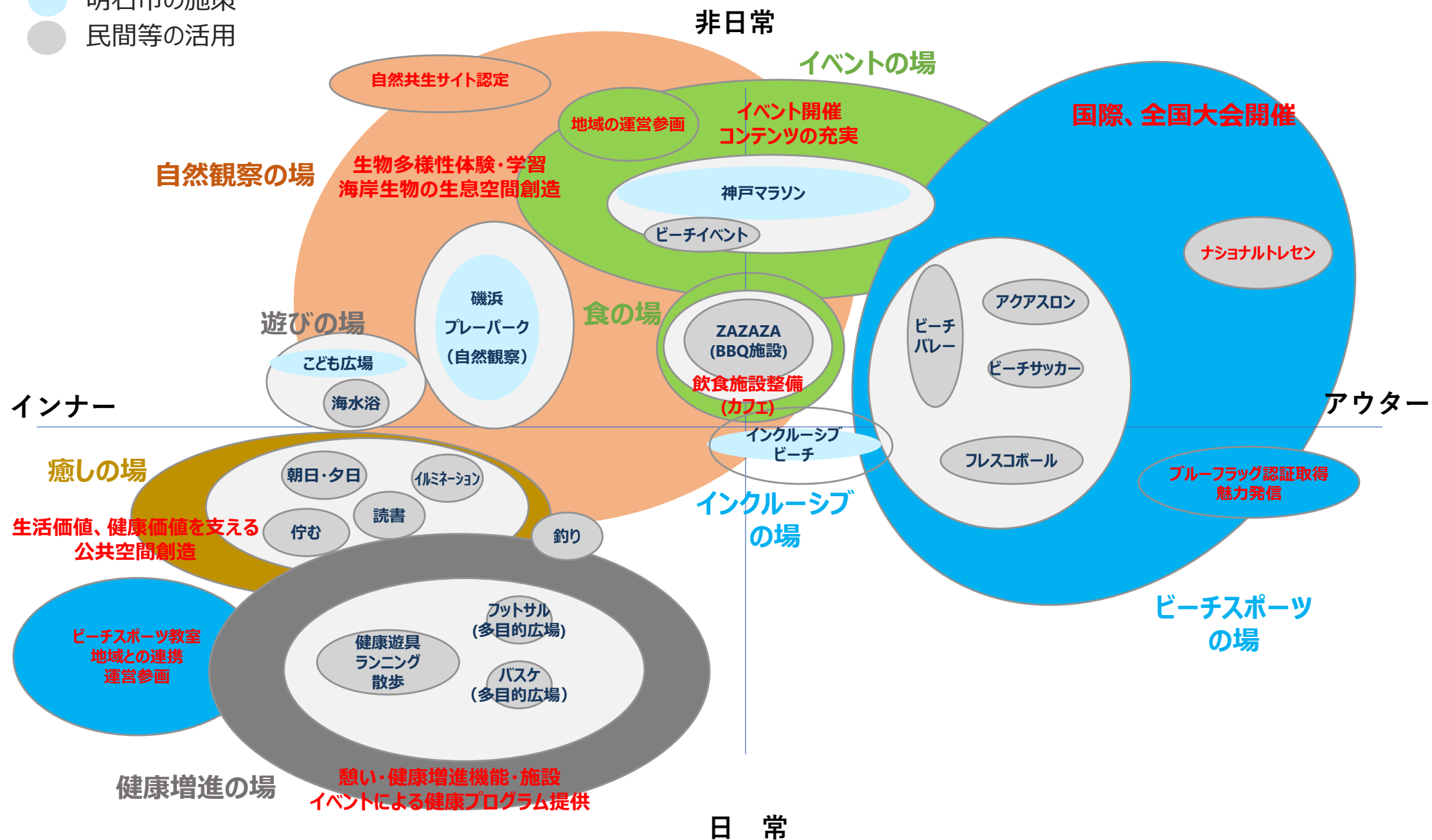
⑥明石中心部からの流動創出の仕掛けづくり

- 明石駅周辺（明石公園、明石駅、中心商業地）、明石港
東外港と連携したまちづくり
- 大蔵海岸へのシームレスなルートづくり
 - ・憩いスポットを有する海岸プロムナード、遊歩道の整備
 - ・適した乗り物（車椅子、自転車等）の配備
 - ・案内サインの設置
- 明石中心部との連携
 - ・海への高い近接性をイメージさせる仕掛け
 - ・明石中心部での大蔵海岸のリアルタイム映像の投影や、
日々の夕日時刻の情報発信
- 回遊性を高めるための仕掛け
 - ・デジタルスタンプラリーやスマホゲームの活用
- 明石の魅力を繋ぎ合わせるストーリー作り
- アクセスの整備
 - ・シェアサイクルなどの移動手段

⑦持続可能なマネジメント

- 安全最優先を大前提とする賑わいづくりに向けたマネジメント
 - ・事故を踏まえた大蔵海岸としての在り方を意識
 - ・賑わいづくりのためのイベント等の積極的な受け入れ
 - ・イメージアップのための愛称名の設定
- 評価の物差しの明確化
- 民間との連携、外部からの投資の活用などによる
財源の確保
 - ・瀬戸内ブランドコーポレーションなどとの連携
 - ・B I Dの仕組みの活用
- 市民の参画の促進
- 観光振興、交流活性化のための基盤づくり

- 明石市の施策
- 民間等の活用



1 中長期的な観点として・・・ 持続する仕組みを構築する

(1) 大蔵海岸の価値向上に関する持続的な取り組みを可能とする体制整備
※観光振興に取り組む体制の強化も求められる

(2) 人材、財源の確保

(3) 関係者の巻き込み

持続可能な枠組み、仕組みを目指す
(民間主導×行政後押し)

2 短期的な観点として・・・ まずは動き出す

(1) 市のなかでの役割分担を明確にし、各テーマ毎に2026年度に実現可能性が高いメニューを優先順位を考慮しながら決定

- ・ イベントや情報発信の実施

- ・ 日本バレーボール協会との関係強化、誘致へ向けたノウハウ獲得 などか

(2) 分科会を設置し、中長期的な取り組みへの具体策の検討や実証実験を行うとともに、仕組みづくり、担い手候補を可視化

賑わい

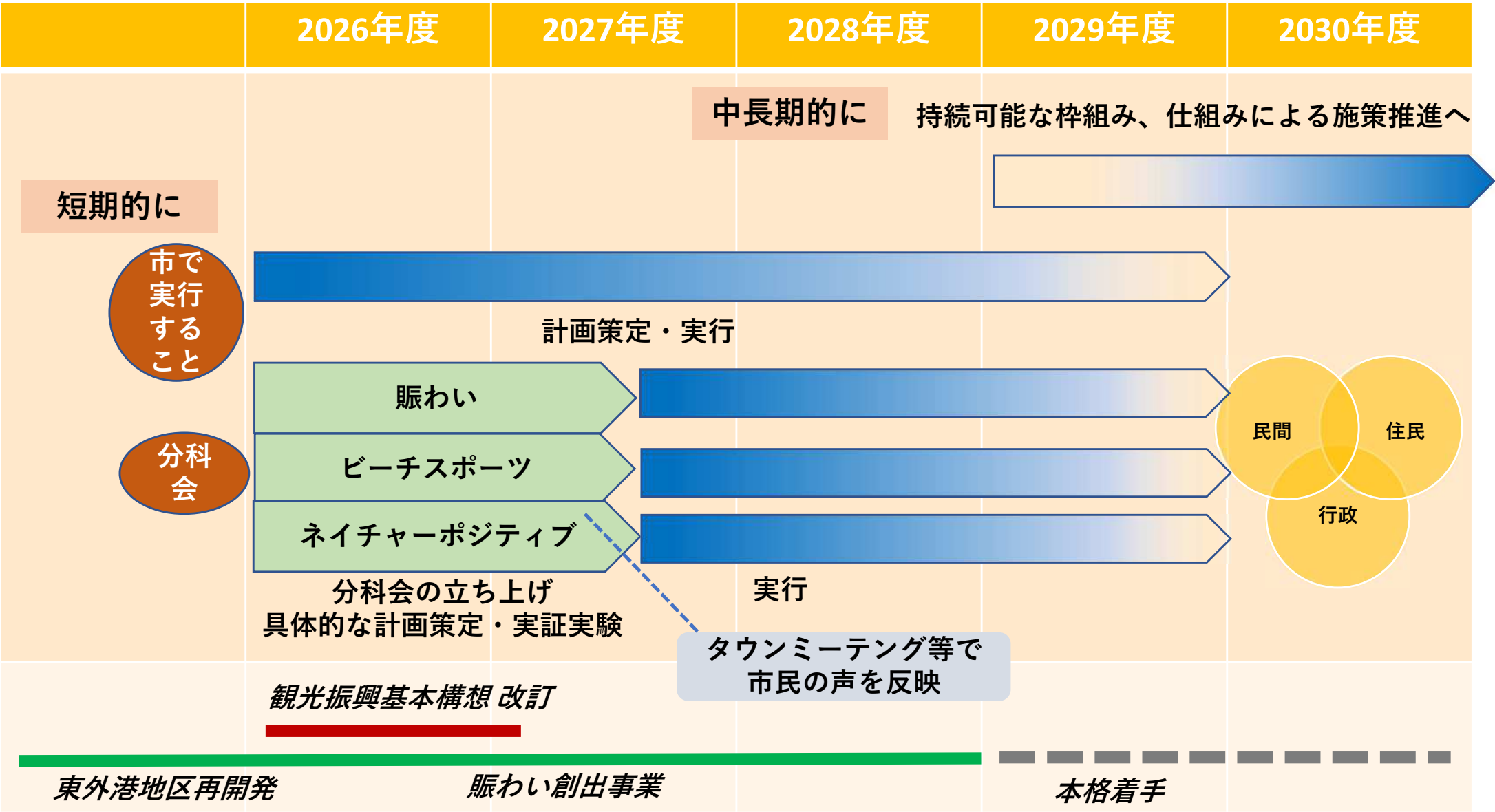
ビーチスポーツ

ネイチャー
ポジティブ

【分科会構成イメージ】

- ・ 地元民間事業者 (地元の本気の担い手が必須)
- ・ 有識者 (アドバイザーボード伴走支援を想定)
- ・ 市

市で実行可能なことを推進していくとともに、分科会では2026年度は具体化に向けた仕組みづくりや担い手候補の可視化、実証実験等を行い、2027年度からの具現化を目指す。
そのなかで中長期的な枠組みを模索し、持続可能な取り組みとしていく。



	分科会	分科会が担うこと	分科会に必要なと考えるメンバー	関係部署
賑わいの創出	○	- 観光コンテンツの整理(夜間も) - イベントや文化系事業の創出 - 観光施策立案 - 民間との連携	- 観光協会 - 地域事業者 - 商店会	シティセールス課 商工政策課 政策局、都市局
ビーチスポーツ施策の推進	○	- ビーチスポーツの方向性整理 - 国際大会等誘致の条件整理(誘致ロードマップの作成、必要施設) - 国際認証取得(ブルーフラッグ) - 体験会、育成、合宿誘致検討	- 各競技団体 - 指導者(プロ、大学関係) - 地域スポーツ団体 - スポーツ関連企業 - 部活関連	スポーツ振興担当 インクルーシブ推進課 教育 政策局、都市局
ネイチャーポジティブの推進	○	- 環境配慮型空間整備方向性整理 - 活用の際の安全対策の整理 - イベントや体験系事業の創出 - 民間との連携	- 民間事業者 - 漁協 - 商店会 - 関連NPO	環境創造課 豊かな海づくり課 教育 政策局、都市局
健康増進の場としての機能強化				健康推進課 スポーツ振興担当 政策局、都市局
癒しの場づくり		※政策局及び都市局は全てに関係		政策局、都市局
明石中心部からの流動創出の仕掛けづくり		※分科会には委員の伴走支援を想定 市関係部署は当然必要		政策局、都市局
持続可能なマネジメント				政策局、都市局